



鶴岡市議会議員〔無会派・産業建設常任委員会〕

田中ひろし 市政報告

2015
JAN.

＜連絡先＞ 事務所 〒997-0036 山形県鶴岡市家中新町 13-35 メール：officefon@gmail.com
TEL 0235-22-0068 FAX 0235-22-0098
議会事務局 〒997-8601 山形県鶴岡市馬場町 9-25 鶴岡市役所 2階
TEL 0235-25-2111 FAX 0235-24-9071

2014年12月1日、鶴岡市のユネスコ創造都市ネットワーク《食文化》部門への加盟が認定されました。関係者のご尽力に拍手を送り、市民みんなで喜びを分かち合いたいと思います。

《食文化》部門に加盟しているのは現在、コロンビアのポパヤン、中国の成都、スウェーデンのエステルスンド、韓国の全州。いったいどんな食文化が息づいているのだろうか？鶴岡市で食文化サミットを開催したいものです。



そもそも、鶴岡市議会で「創造都市」がクローズアップされたのは2010年6月のこと。その時の記事で僕は「これまでの事例を見ると、申請から7ヶ月～1年ほどで認定されるケースが多かったようで、世界遺産認定ほどの遠い目標ではないだろうと予想されます。」と書きました。ところがその後、ユネスコ内部のゴタゴタの影響もあり、思いがけず4年半という長い道のりになりました。

今回、浜松市が《音楽》部門で同時認定されました。国内からは既に、神戸市（デザイン）▽名古屋市（同）▽金沢市（クラフト&フォークアート）▽札幌市（メディアアート）が加盟。創造都市＝Creative Cityの考え方は、大都市よりもむしろ鶴岡市程度の規模の都市でこそ生きるはず。これからが勝負！

創造都市ネットワーク《食文化》部門加盟認定！

ちなみに浜松市では、12/1時点で既に市ホームページのトップにバナーを貼ってアピール中。一方、鶴岡市はマスコミ報道によって知るばかり。首を長くして吉報を待ち続けていた多くの市民のために見習うべき姿勢でしょう。



今回、ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟が認定されたのは、19ヶ国からの28都市。鶴岡市はどこだろうと探していくと下のほうに、ちゃんと掲載されていました。（了）



UNESCO Creative Cities Network is pleased to welcome the following cities within its seven thematic areas (Craft and Folk Arts, Design, Film, Gastronomy, Literature, Media Arts and Music):

- Bilbao (Spain) – Design
- Busan (Republic of Korea) – Film
- Curitiba (Brazil) – Design
- Dakar (Senegal) – Media Arts
- Dundee (United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland) – Design
- Dunedin (New Zealand) – Literature
- Florianopolis (Brazil) – Gastronomy
- Galway (Ireland) – Film
- Granada (Spain) – Literature
- Gwangju (Republic of Korea) – Media Arts
- Hamamatsu (Japan) – Music
- Hanover (Germany) – Music
- Heidelberg (Germany) – Literature
- Helsinki (Finland) – Design
- Jacmel (Haiti) – Crafts & Folk Arts
- Jingdezhen (China) – Crafts & Folk Arts
- Linz (Austria) – Media Arts
- Mannheim (Germany) – Music
- Nassau (Bahamas) – Crafts & Folk Arts
- Pekalongan (Indonesia) – Crafts & Folk Arts
- Prague (Czech Republic) – Literature
- Shunde (China) – Gastronomy
- Sofia (Bulgaria) – Film
- Suzhou (China) – Crafts & Folk Arts
- Tel Aviv-Yafo (Israel) – Media Arts
- Tsuruoka (Japan) – Gastronomy
- Turin (Italy) – Design
- York (United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland) – Media Arts

ユネスコ創造都市ネットワークホームページ

10月臨時会報告

8月臨時会において、建設費用を19億9000万円上乗せし、78億9000万円にする議案が審議されました。私は市民への説明不足のまま大幅増額することに反対しましたが、賛成22・反対10の賛成多数で可決されました。

増額決定を受けて4度目の一般競争入札を行い、9月30日に竹中工務店と地元の菅原建設、鈴木工務店のJVが落札。その後10月10日の臨時会で、78億8400万円(税込)での改築工事請負契約が賛成多数で可決されました。この日、私が行った反対討論を全文掲載します。

反対討論 (全文掲載)

■田中議員 本議会に上程されております一般会計補正予算及び鶴岡市文化会館改築工事請負契約の締結について、反対の立場で討論いたします。

当初計画の2倍にも及ぶ工事価格での請負契約ということで、先日8月の臨時会における大幅増額にも反対させていただきましたけれども、その流れで、今回入札成立したことについて、そして、その請負契約について賛成できないことを表明いたします。

そして、何よりこの新文化会館の問題があぶり出したことについての市政の進め方についての多くの市民の方々の疑念の声、代表して申し上げておきたいと思えます。

今回、さまざまな一連の騒動を通しまして、入札の3回の不調などを通して、どんどん市民の関心が高まってまいりました。先ほどの賛成討論でも御指摘ありましたとおり、かつてないほど市政への関心が高まっているということは、先ほどけがの功名という言葉をお使いになりましたけれども、私は雨降って地固まると申し上げたいというふうに関心、8月の臨時会で申し上げました。その結果、今どのような議論が市民の間で交わされているかといえば、なぜ改修でなく改築に至ったのか、それから、なぜ今の場所での改築が決断されたのか、それからなぜ妹島和世氏の設計者として選定されたのかという3年前の議論が蒸し返されているという状況でございます。

これは、なぜなのかといえば、それはさかのぼっても結論が出ないからです。それは、なぜ改修ではなく改築だったのか、それから、なぜ現在地での改築に至ったのかという議論については、市役所内での議論に基づいて市長が判断したというふうに関心、8月の臨時会で申し上げました。その結果、今どのような議論が市民の間で交わされているかといえば、なぜ改修でなく改築に至ったのか、それから、なぜ今の場所での改築が決断されたのか、それからなぜ妹島和世氏の設計者として選定されたのかという3年前の議論が蒸し返されているという状況でございます。

そして、もちろん2011年3月の東日本大震災がもしなければ、今回の入札不調、一連の経緯には至らず、順調に進んでいたならば、この新文化会館の経緯についても問題になることなく着地していたのかなと想像いたしますけれども、しかしながら、現状があぶり出したのは、その市民参画の不十分だと申し上げましょうか、市庁舎内での議論に基づいた決断ということについて、その説明不足を市民の方々が憤っておられるということを指摘したいと思えます。

そんなわけで、これまで市長が既に表明されておりますとおり、市民の文化芸術活動への支援ということですが、現在、その子供たちも含めまして、文化会館と青年センターがないというようなことを含めて、多くの市民の方々に、例えば活動会場が探しにくいとか、酒田まで行かねばねとか、さまざまなことが起こっております。先ほど賛成討論でも御指摘ありましたとおり、引き続き、なるべく早目の手を打っていただいて、市民の文化芸術活動の後退、そして空白につながらないように求めるものでございます。

そして、管理運営計画、今回の会場、今回のハード整備についての議論に加えまして、今、管理運営計画についての話し合いが進んでおります。そして、ごく一部の市民の芸術文化活動を代表している芸術文化協会だけではなく、さまざまな世代、そしてジャンルの市民を参画できる形を求めて、管理運営計画への策定に臨んでいただきたいと思います。

そんなわけで、今回の大幅増額に基づいた工事請負契約の契約については賛成できませんので、反対討論といたします。(了)

視察報告 ~萩市

- 日時：2014年5月23日
- 訪問先：山口県萩市役所
- 視察テーマ：歴史的風致維持向上計画
- 視察対応者：萩市歴史まちづくり部 まちじゅう博物館推進課 推進係長 兼 世界遺産登録推進課推進係 金田農 様
- 視察団：産業建設常任委員会委員8名 他



◆視察の目的

鶴岡市では【鶴岡市歴史的風致維持向上計画】を策定し、平成25年11月22日、国の認定を受けた。全国でも40ほどの自治体しか認定されておらず、山形県内では初の認定となった。計画期間は平成25年度～平成34年度の10年間。

- ・旧荘内藩主酒井氏と荘内大祭にみる歴史的風致
- ・藩校致道館の教学精神にみる歴史的風致
- ・出羽三山神社と祭礼にみる歴史的風致
- ・門前町手向地区と出羽三山参りにみる歴史的風致
- ・松ヶ岡開墾場と地縁団体の活動にみる歴史的風致
- ・鶴岡天満宮と天神祭にみる歴史的風致
- ・七日町観音堂と師走の御歳夜にみる歴史的風致
- ・鶴岡の絹産業と絹関連工場にみる歴史的風致

平成20年に認定を受けた先進地である萩市の取り組みを学び、鶴岡市での計画実施の参考にするために視察を行った。



◆萩市歴史的風致維持向上計画

萩市のまちづくりの最上位に位置づけられる【萩市将来展望】(平成19年策定)の基本理念を実現するための計画のひとつとして策定。7つの施策の一つ「次代へつなぐ機能的で安らぎのあるまちづくり」の基本方針として「萩まちじゅう博物館構想のもとに、風格ある歴史景観などを後世に伝えるため、市民と一体となって歴史的な文化遺産とその景観の保存に努める」と規定している。

平成20年5月23日の「歴史まちづくり法」成立を受けて、翌週には企画課を事務局に市内のプロジェクトチームを立ち上げた。計画期間はH20～30の10年間。平成30年は「明治維新150年」のメモリアルイヤーなので、それまでに整備を間に合わせたい。

◆萩市の観光の現状

近年は年間240万人ほどで推移しているが、昨年は豪雨の影響で減った。県内から35%、県外から65%。宿泊者はわずか2割で、46万人ほど。バス利用が43%。JRで山口まで来て、バスで来るパターンが多い。年代的には50代以上が大半を占め、歴史・文化に期待して来る人が6割。

◆計画の重点区域

旧・萩市の中心部には江戸時代の古地図がそのまま使える町並みが保存されており、国指定重要文化財や多様な文化遺産が豊富に存在する。

- ・萩城下町及びその周辺
- ・旧松本村及びその周辺

◆計画事業

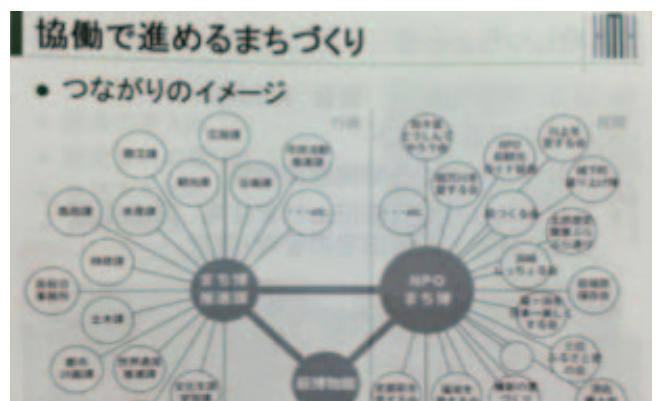
計画した11件の事業のうち、10件は既に完了。指定文化財以外にも、松蔭先生最後の弟子の旧宅を千葉在住の親族から寄付してもらって整備した例もある。地元NPOが萩焼展など、年中無休で運営している。平成26年3月まで現役の小学校だった「藩校明倫館」は全国最大級規模の昭和初期の木造校舎である。5年間かけて、国交省の補助金を活用し、観光拠点・展示・市民活動・生涯学習の発表などを想定した施設として整備する予定。

◆進行管理・評価シート

毎年、進捗評価を行う他、3年に一度、第三者によって方針等の達成状況、代表的な事業の質の評価を行っている。

◆萩まちじゅう博物館

フランスのエコミュージアムから発想した。建物の中に展示するのではなく、地域の全体を「屋根のない博物館」として捉え、現地であるがままの状態を見学してもらう構想。支援組織としてNPOまちじゅう博物館(会員205名)があり、萩博物館を年中無休で運営するなど、学芸活動をサポートしている。



◆萩ものしり博士検定

平成17年から企画し、ご当地検定のはしりとなった。平成18年から公式開始。合格率2割の「博士」になった人も100数十人いる。平成20年から《子どもものしり博士検定》、平成25年から《萩・幕末維新検定》も開催。幅広い世代の市民や観光客が参加している。萩の歴史や文化をクイズ形式で楽しく学び、萩の魅力を再発見するとともに、歴史的風致をはじめとする「まちじゅう博物館」に参加するきっかけを提供している。

(※次頁へつづく)

◆萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業

文化庁の補助を得て、市民と協働でまちじゅうのお宝を調査・認定・公開する事業。お宝候補を市民がプレゼン提案する。

◆地域ガイドの育成

平成22年、日本経済新聞の【散策したい歴史ある町並み】ランキングで萩市が1位に輝いた。「観光施設ではなく、地区全体の空気感が心を和ませる」とことと「歴史・文化を誇りをもって伝えてくれる地域ガイドがいる」ことが評価されたとのこと。鶴岡市でも、地域ガイドの育成は重要である。

◆無線LAN環境の提供

「萩まちじゅう博物館」の取り組みには、情報提供・情報発信が重要である。観光拠点の多くで、市民や観光客が自由に接続できる環境を提供していた。

◆まとめ

平成25年7月、萩市は集中豪雨に見舞われ、20軒が全壊、床下浸水も含めれば800軒以上という大きな被害があった。一日も早い復興を祈りたい。「萩まちじゅう博物館」構想の下、行政とNPO、多くの市民が協働しているのが印象的だった。鶴岡市でも、歴史と伝統を支えてきたその地域の住民だけでなく、それ以外の市民・観光客も巻き込んで歴史的風致の維持向上に取り組んでいく仕組みが必須であろう。藩校明倫館の活用も参考になった。鶴岡市でも「鶴岡城下町検定」を企画し、藩校致道館を試験会場にするような試みがあり得るのではないかと。(了)

定例会報告

防災・防犯・福祉などを一体として捉え、企業や事業所などを含めた地域の中の多様な主体が顔の見える関係でつながっていく「地域防災コミュニティ」が注目されています。不審者が多発する昨今、コンビニを子ども達を守る「駆け込み寺」として活用するためにも、包括連携協定を活用していきたいものです。

文化会館の休館は、文化会館や青年センターの利用者だけでなく、取り壊された商工会館・産業会館など広範囲にマイナスの影響を与えています。行政は市内の各種施設が利用しやすくなるよう、きめ細やかな配慮と対応を心がけるべきです。

平成26年12月定例会・一般質問

◆テーマ

1. 防災・安全に関する民間との連携について
 - (1) 災害応援協定について
 - (2) その他の連携協定について
 - (3) 自主防災組織の支援について
2. 市民の学術・文化・芸術活動の会場不足について

「防災と福祉を一体とした「地域防災コミュニティ」のために議員 災害応援協定の現状と実効性を高めるための取り組みは、県がコンビニなどと締結している包括連携協定の活用は、自主



田中 宏 議員



ハザードマップや防災用品の展示



つるおか市議会だより 平成26年12月定例会号

防災組織と地域内の事業者の連携の現状と支援体制は。市民部長 災害応援協定は、食料・飲料など物資確保関連が7団体、道路・水道など公共インフラ復旧関連が5団体、その他通信など計17民間事業者と締結している。東京都墨田区、兵庫県篠山市、新潟県胎内市とは災害時相互応援協定を結んでいる。山形県建設業協会鶴岡支部と山形県解体工事業協会は今年度の鶴岡市総合防災訓練に参加し、消防団との連携など、有事を想定した具体的な実働訓練を実施することができた。今後も、協定締結団体に、市の総合防災訓練への参加や災害対応の図上訓練への協力を働きかけたい。県の包括連携協定には、急病人・ケガ人への対応、不審者からの駆け込み機能、自然災害の際の一時的な避難場所など多岐に渡る支援が含まれている。本市にも多くの店舗があり、防犯や災害対策における具体的な事業連携について研究していく。湯野浜地区では津波時の住民避難について住民と事業者の申し合わせがある。事業者が地域の一員として防災力向上に貢献できるよう、自主防災組織とともに連携体制づくりを検討したい。